

二十一世紀を展望した町づくりを

鎌倉 高崎 修

月日の過ぎるのは早いものだとつくづく思います。数年前に迫った二十一世紀も、じき現実のものとなるでしょう。今からその時のことを考えておくことが必要と思います。

二、地域としての環境整備
近年職場中心の生活が重視され、地域としてのまとまりが今一つの状態となっています。

一、少子高齢化社会
我が国の平均寿命は、女性八十三歳、男性七十六歳となり世界一長寿社会となりましたが、当然高齢化の割合も増えて、六十五歳以上の高齢者は、十三・五％に達しています。この割合は年々増加して三十年後には倍増の見込みです。

このことは、時代の流れとしてさけ難い問題であります。地域の向上なくして、町民個々の向上は有り得ないことです。

それに加えて一人の女性の産む子供の数は一・四六人と年々減少傾向を示しています。こうして二十世紀中に我が国の人口は三倍となったのに、二十一世紀前半には、人口減少という

ア、町民が出会い、話し合う機会を多くし親睦に努める。
イ、高齢者を支える体制をつくり不安を解消する。
ウ、農業基盤の整備、農機の共同使用を促進する。
エ、山林、休耕田等の有効活用を検討する。

柿づくり奮闘記

柿づくり奮闘記

石井静夫

昨年は多雨、長雨、底温冷夏。本年は炎暑、猛暑、渇水、干害と水に悩まされる一年でありました。果樹をはじめ、すべての農産物には壊滅的打撃でありましたが、それでも知恵と工夫と努力によりどうにか耐えしのぐことが出来ました。

オ、生活の中の「遊び」を重視し、運動による身体機能の発揮をはかる。
カ、後継者が町外へ出ない様に閉鎖的な風習を改める。

当地特産品として目下売り出している「西条柿」も、随分苦労させられました。

この西条柿は、遠く奈良朝のころ遣唐使によって広島の地にもたらされたのがそもその発祥であるといひ伝えられています。以来中国地方から四国にかけて一千有余年にわたって親しまれてきました。

西日本各地に分布する西条柿でも気候風土に恵まれた当地のものが逸品であるとの評価を受けています。

脱渋は薬品を使わず、お酒で渋を抜く方法でやっています。これは、西条柿の風味を損なうことなく仕上

状況に至ると言はれて
います。

このため、これからは子供を育て易い社会環境づくりを努めると共に、高年齢者が協力し合い若者に負担をかけるないことを心がけるべきでしょう。

☆ 明るい話題 ☆

十一月十九日(土) 県道清掃中の如水館高校生に、白い車で通りかかった男性が、缶ジュースをプレゼントしてくださいました。—— 感激です。

いっしょにいませ

- ▼ 柴田義治様 (松尾・十月九日)
- ▼ 桃北満男様 (峠・十月十日)
- ▼ 山下正記様 (峠・九月一日)

お悔み申し上げます

- ▼ 広川千枝子様 (十一月三日・七十九歳)
- ▼ 音石康雄様 (十一月十日・七十一歳)
- ▼ 西 則弘様 (十一月十日・四十七歳)

十二月各種団体行事予定

- ★ 小学校
▼ 避難訓練 十二二二 ▼ 参観日 十二二九
- ▼ 廃品回収 十二二二 ▼ 終業式 十二三四
- ★ 尚寿会
▼ GB大会 十二二一 ▼ 忘年会 十二二五
- ★ 消防団
▼ 忘年会 十二二三 ▼ 年末警戒 十二二七
- ★ 女性会
▼ 親睦会 中 十二二三 下 十二二三
- ▼ JA傷害共済運動協力月間
- ★ 如水館高校
▼ 献血 十二二五 ▼ 終業式 十二二三

お知らせ

一、新道工事は、平成七年三月末日に構造工事完了目標で進めていきます。四月以降も引き続き舗装工事等を行います。

二、悪寒でありました大粒、小学校間の歩道設置は、地権者の賛成の協力により全線測量を終えました。早計画図作成中です。

展望席

人生には、様々な危険や危機がつきまとう。事故や天災はその典型なものである。これ等不測の事態に備え考え出されたのが保険制度である。▼近頃、新聞等でよく目にする言葉に「危機管理」又「危機管理能力」がある。いざという時の対応を日頃から準備しておく考え方である。▼個人ベースでの危機管理は勿論大切だが深町のそれも、個人以上大切である。「地域の向上なくして、町民個人の向上はあり得ない」という連合会長の言葉は説得力がある。深町の現状を危機管理という視点で捕えるかどうか。——